

来週の市場とレート予想

	9/4(月)	9/5(火)	9/6(水)	9/7(木)	9/8(金)
無担保O/N			△0.086%	~ 0.001%	
銀行券	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 28,200	△ 8,000	+ 1,000	+ 1,000	ト ン
資金需給	△ 27,200	△ 7,000	+ 1,000	+ 1,000	△ 1,000
主な要因	普通交付税 法人税・消費税・保険揚げ 国庫短期証券発行・償還 (3M)				
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,500 CP等買入 △ 100 社債等買入 △ 100 国債補充供給 + 100				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,400 ETF買入 + 100	国債買入 + 9,900 短国買入 + 1,000			
(日本)	マネターベース(8月) 営業毎旬報告 (8月31日現在) 保有する国債の銘柄別残高 (日銀) 国庫短期証券の銘柄別 買入額(日銀)		毎月勤労統計(7月)	対外対内証券売買(前週分) 景気動向指数(7月)	GDP(4-6月改定値) 国際収支(7月)
(海外)	米 祝日で株と債券は休場	米 フレイトン FRB理事講演 米 ミネアポリス連銀総裁講演 米 ダラス連銀総裁講演 欧 ユーロ圏GDP(4-6月確定値)	米 貿易収支(7月) 米 ISM非製造業景況指数 (8月) 米 ページブック	米 新規失業保険申請件数 (前週分) 米 NY連銀総裁講演 欧 ECB政策金利発表	米 消費者信用残高(7月) 米 ファイデルフィア連銀総裁 講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.025 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.025 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.025 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週を通して362兆円台~363兆円台で推移した。
無担保コールON物は月末にかけて資金調達意欲がやや後退する展開となった。一方、29日には、一部金融機関による試し取りから+0.001%の出合が散見された。加重平均金利は、28日の△0.056%から、31日には△0.066%まで低下し、1日は△0.063%まで上昇し越えた。
ターム物は1~2W物を中心に、主に△0.045~△0.025%の出合が見られた。
1日、10年物国債利回りは、一時△0.005%まで低下し、2016年11月16日以来、約9ヶ月ぶりの水準となった。
来週の予定は、国内では8日にGDP改定値(4-6月期)、海外では7日にECBの金融政策発表が予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.001
TDB 3M	△0.150 ~ △0.250
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆4,500億円で、償還額の約1兆3,100億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。月末日発行がほぼ期落ち並みに発行され、月初スタート分が増加したことから、償還比プラスとなった。
発行レートは0%からマイナスでの出合いで、大型発行案件では0%の出合が中心で、一部の銘柄や長めのターム物については百分の台のマイナスの出合が散見された。来週の償還額は、5,700億円程度となっている。
発行レートは、投資家の運用ニーズの強さからも、引き続きマイナスから0%近辺での出合いが予想される。
7日に、CP等買入オペのオファーが3,500億円程度予定されている。
現先レートは、△0.100%~0%程度の出合いで、横ばい圏内での動きを予想する。

<TDB>

31日に行われた国庫短期証券3M第705回債の入札は、最高落札レート△0.1683%(前回債△0.1423%)、平均落札レート△0.1760%(同△0.1463%)と前回債から大きくレートが低下した。四半期末特有の需要もあり、堅調な結果であった。
セカンダリー市場では入札後にショートカバーが見られ、一時△0.45%の強い出合が見られた。
来週は6日に6M物、7日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.095%~△0.10%の出合いから始まった。31日受渡しは月末要因もありレート水準が低下し、S/Nでは△0.13%~△0.14%が出合いの中心となった。9月入り後は週初と同水準の△0.095%~△0.10%までレートを戻し、同レベルで越えた。
SC取引では、5年132回債と10年347回債のBIDが週末の国債買入オペ後に増加した。10年347回債はレートが急低下し、一時△0.50%~△0.60%の出合いも見られた。
その他2年378・379回債、5年130・131・132回債、10年334・335・337・338・344・345・346・347回債、20年161回債、30年55回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。